

地元食材の普及を進めよう 農業女性井戸端会議が試食会

12月15日、女性農業者でつくる農業女性井戸端会議が地元食材を使った試食会を観音滝公園交流センターで開催しました。

この試食会は、農業委員会主催で実施されたもので当日は25名が参加し地元のさつま地鶏やお茶、大豆などを使った「茶しゃぶ」、「みそ鍋」、「豆乳しゃぶ」、「しょうゆ鍋」の4種類を試作しました。

その後試食に入ると参加者は、いろいろ食べ比べながら意見交換をおこない地元産の食材のおいしさに自信を深めたようでした。

農業委員会の久永豪会長は「この試食会は、地産地消（地元の食材を地元で消費する）にとってとてもよい試みだと思います。」また会員も「こういった活動を合併してからも宮之城や鶴田に広げていければ！」と話していました。



交流センターでの試作の様相

心に響く童謡を

12月12日、梅の里さつま童謡コンサートが改善センターで開催されました。

この梅の里さつま童謡コンサートは、町文化協会主催でおこなわれたもので、当日は熊本県の日本国際童謡館から歌手が来町し、童謡を披露しました。

今回来町したのは、熊本県出身の矢部清子さんとそがみまこさんが結成した童謡デュオ DOYO組で、2人は世界へ童謡を広げることが目的に現在活動中です。2人は「手のひらを太陽に」「小さな木の実」など童謡のヒット曲を爽やかなハーモニーで歌い、その澄んだ歌声に来場者も盛んな拍手を送っていました。また当日は、町内の音楽グループも参加し、一緒に歌を歌ったり演奏をおこなったりしました。

子どもと一緒に来たという女性は「歌手の歌声が、とてもすばらしかった。こういう催し物があつたらまた是非聴きにきたい。」と感想を話していました。



▲すてきな歌を歌う
—DOYO組—

びっくり箱



六年生はやりがいがある

永野小六年 平 拓之介君

ぼく達は、永野小の六年生です。六年生は本当に忙しいです。朝のあいさつ運動、体力作りは毎日あるし、行事のあるたびに係になって、全校をひっぱっていかなければいけないので、最初は「大変だな。」と思っていました。でもこの間、六年生でよかったと思う出来事がありました。

木曜日の仲良し体育は、職員朝会が長びいて、なかなか

先生方がいらつしやいませんでした。最初は、じっと座って待っていました。そのうちぼくが、「ねえ、ぼく達が前に出てやれば」と言いました。そしたら、史輝君が、「うん、出るが、出るが」と言って前に出て、回れ右とか、右向け右とかを、全校のみんなに教えました。ちよつと緊張したけど、みんなよく言うことを聞いてくれました。

そのうち、校長先生がいらして、「おーすばらしい六年生だ。」と、みんなの前では

めて下さいました。帖佐先生にも、前の六年生もすばらしかったけど、ここまでするなんて、あなたたちもすごい。」とほめられました。いつも帖佐先生が「自分達で考えて進んで行動しなさい。」と言っていたからです。でも、ほめられた時は、本当にうれしくて「六年生も悪くないな。」と思いました。自分で言うのもなんですが、今永野の六年生はよくがんばっていると思う。

エコマザー

永野小一年 山口紗祐梨さん

とおくからエコマザーがきてくれました。森じいとなかまたちのかみしばいやクイズがありました。かみしばいで森じいがしゃべりました。

クイズでは、三もんせいかいでした。でんきや水などむだづかいをしないように気をつけたいです。

さつまようちえん

永野小一年 池山真衣子さん

きょうは、さつまようちえんにいきました。さいしよにようちえんせいのはつぴよう